

1. 自分の力を知り、学習スタイルを確立せよ！

1年生の皆さん、高校生活最初の定期考査が終わりましたね。結果はどうでしたか。

2年生の皆さん、準備は万端でしたか。

学習の成果が発揮できた人もいれば、思うような結果が出なかった人もいます。「為せば成るノート」を見ながら、自分の学習スタイルや生活リズムを見直してみましょう。



“できる受験生”になれる高校3年間の過ごし方

◇入試に近道はない。3年間の積み重ねで自分だけの強みを手に入れよう！

高1・2年生の皆さん、受験対策は3年生になってからやるものと思いませんか？数多くの受験生を大学に送り出してきた進路指導の先生は、それが間違いであることを知っています。充実した高校生活のすべては、悔いのない進路へとつながっています。

・選抜方式別の評価の視点とは？

大学入試は主に、一般選抜、学校推薦型選抜、総合型選抜の3種類があります。一般選抜は「現在」の実力、学校推薦型選抜は「過去」の実績も加味、総合型選抜はさらに「未来」の可能性も加味して判定する入試だといわれています。具体的にいうと、一般選抜では、筆記試験で実力をアピールして合格最低点を上回れば合格通知がもらえます。ここに向けて実力をつけ、学力で勝負するスタイルです。

一方、学校推薦型選抜では、その時点での学力以外に、評定平均値（学習成績の状況）や部活動の実績など、高校生活で取り組んだことの成果が加味されるのが主流です。

さらに総合型選抜は、受験生の現在の学力だけでなく、過去の実績や未来の可能性も測ろうとする入試ですので、長い時間をかけて人物評価がなされます。個人面接、グループディスカッション、口頭試問、プレゼンテーション、小論文などを通して、受験生が高校3年間でどのような課題に対して問題意識を持ち、学習を進めてきたのか、また、大学でどのように研究課題を深めたいかが問われる入試スタイルです。高校生活に取り組む姿勢そのものが問われる入試といえるでしょう。

どの方式の入試に挑むにしろ、3年間、探究学習を扇の要としてすべての教科に全力で取り組み、まんべんなく学習成果を収めておくことが肝心です。

・進路のビジョンを3段階で組み立てよう

進路は「3年生になってから」決めるのではなく、「3年かけて」決めるものです。3年間の集大成として納得いく進路を決められるよう、1年次からスモールステップを踏んでいきましょう。

まず1年次から社会に対してアンテナを張り、学問と社会の関わりについて理解すること。視野を広げて将来のビジョンを考えつつ、2年次には学部学科を絞り、学びたい学系を考える延長線上で志望校群を見つけます。そして、高校3年生のゼロ学期と呼ばれる2年冬には受験勉強を始め、3年次には計画的に受験学力を伸ばしていく流れです。その上でどの選抜方法で勝負するのか、先生や保護者とよく相談し、自分に最適な方式を見つけましょう。「楽な入試スタイル」はありません。濃い毎日を積み重ね、その3年間の総決算として自分はこれで勝負する！という「とっておきの武器」を手に入れてください。

2. 「学問」分野から自分の興味・関心を考えてみる

・学部・学科とは？学群・学域って？

「学部」とは大学において、専門的な教育や研究を行う大きくくりな組織のこと。この学部の下に、さらに細分化・専門化した「学科」が設置されるのが一般的。大学によっては学科の中をさらにコースや選考かなどに分ける場合もあるし、学科組織のないところもある。また、筑波大などは学群、金沢大などは学域・学類制をとっていて、従来の学部における複数の分野にあたる広い範囲をカバーする組織となっている。幅広く学びたい学生のニーズに応えた組織の形だ。

・学問の分野とは？

みなさんの高校でも2年生から文系・理系のクラス分けをすところも多いだろう。文系・理系に分けて対策を行うことは、現在の入試方式を考えると理にかなっている。しかし、学びたいことを見つけるときに文系・理系の考え方に偏りすぎると、大事なことを見落とす恐れがある。まずは大学で学ぶ学問の全体像を、フラットな視点で見よう。下表は学問を4つのカテゴリに分けている。対象とする物事に応じて3つの領域に大別。「科学」といえば理学・工学などを指す風潮もあるが、どの領域も人間の心や言葉、社会の動き、自然現象まで未知なるものを科学的な目でとらえ、読み解く学問なのだ。

人文科学系	文学, 哲学, 史学, 心理学, 語学, 文化学など 心や言葉, 行動, 文化などを通じて「人間」そのものを考える学問領域。
社会科学系	法学, 経済学, 経営学, 商学, 社会学など 人文科学系が人間そのものを考えるのに対し, 人間がつくり出した「社会」の動きやしぐみについて探求する領域。
自然科学系	理学, 工学, 農学, 獣医・畜産学, 医学, 歯学, 薬学, 保健学, 看護学など 自然界のあらゆる原理を解明する, あるいは解明された原理を人間社会のために活用するための学問。
その他	教育学, 教養学, 人間科学, 福祉学, 家政・生活科学 体育・健康科学, 芸術学など 上記の枠組みにあてはまらない新しい学問や, 複数の学問領域が重なり合う「学際的」領域。

・「学際」と文理融合の進展

学問が従来の領域を超えて発展することを「学際化」という。たとえば心理学は文系分野として分類されているが、看護・医療の現場では心とからだの問題は不可分であり、大学でも医療・保健学と心理学を並行して学ぶことができるところが増えている。

また ICT の急激な発展により、人文、社会、自然科学のあらゆる事象をデータで読み解こうという「データサイエンス」が成長を遂げている。これらのような「文理融合」した学部・学科がどんどん増えており、「データサイエンス」「情報工学」はここ数年大学のトレンドになっている。

このように、文系・理系は明確に区分されるものではなく、学問は互いにつながっていることを念頭に、自分のやりたいこと、興味あることを突き詰めていこう。

・文理選択はどのようにするべき？

数学が苦手だから文系、国語が嫌いだから理系、といったように、教科・科目の得意・不得意で決める人が多い。だが、ここで「がんばって苦手教科も克服してみようかな」という考えもしてみよう。

一般に、経済学部や商学部は文系学部とされているが、入学後に数学を使う機会が多い。心理学科も文学部に含まれる大学が多いが、統計データ処理などの数学的要素が求められる。これらの学部・学科は数学以外の科目で受験できるところも多いが、入学後のことを考えると数学の勉強もしておきたい。また、看護・医療系学科は、人文科学系や社会科学系の知識が必要になってくることもある。入試に必要なから、という観点だけで選ばないようにしたい。

(蛍雪時代 2023 年 4 月号より)